

川の子ども新聞

第9号

THE JOMO SHINBUN
上毛新聞社

利根川の水の精「ポトム」



秋は、川から始まる。

虹色のたよりをのせて、
山から里へ、まちへ。
秋は、そよそよ、
川をとおつて、
やってくる。



P2-3 矢木沢ダム探検
利根川のいちばん奥にある大きなダム「矢木沢ダム」を探検したよ。次のページを見てね!

P4-5 川虫調査による「群馬の川の水質マップ」
P6-7 「カスリン台風」ぐんまをおそう・読者からのおたより
P8 ポトムの楽校

てり はきょう みなかみまち
照葉峡(水上町)

川にまつわる話

板橋 春夫

大幽の八束脛

水上町には、大幽、幽倉沢、幽ノ沢山、幽沢など、幽(ゆう)の付く地名が数多く残っています。このうち、大幽については次のような伝説を伝えています。

大昔、大幽と呼ばれる大きな岩穴に八束脛が住んでいました。八束脛は、両腕に羽根のようなものが付いた伝説上の怪人です。あちこちに出没して悪いことをするので、村人は困っていました。

あるとき、八束脛が藤づるを上下して尾瀬と人里の間を行き来していることに気づき、村人はこの藤づるを切り落としてしまったので、八束脛は岩穴から出られなくなり死んでしまいました。その後、この岩穴は獺師の休憩場としても使われました。岩穴に鶏を追い込んだところ、新潟県へ抜け出たという不思議な話も伝わっています。

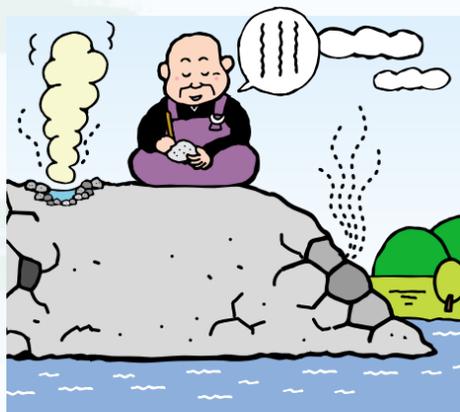
上越国境地帯では、このような岩穴のことをユウと呼んでおり、地名研究の成果によれば、全国各地にあるユウ、リュウなどという地形名と一連のものと考えられています。怪異譚を伴うのは岩穴の形状によるもので、幽霊の「幽」の字が当てられた結果、さらに神秘性が増したと言えるでしょう。

温泉伝説のいろいろ

水上町藤原の入り口に粟沢という集落があり、昔、温泉がわき出ていました。ところが、あるとき村のいたずら者が、死んだ馬の骨を温泉の中に投げ込んでしまいました。すると、豊かになつていた湯が止まってしまう、間もなく宝川温泉のずっと奥にある湯の花という

所で温泉がわき出したと言います。この湯の花温泉は、鷹が飛んでいるのを見て発見されたといわれています。鷹といえば、宝川温泉も日本武尊がやって来たときに、白鷹が案内するかのよう飛び回り、温泉を発見したと伝えられています。なお、湯の花温泉は、明治年間に新潟県の人が発見していましたが、現在は矢木沢ダムの底に沈んでいます。

水上温泉は、昔は湯原温泉と呼ばれていました。湯原にある建明寺の僧海翁が利根川沿いに歩いてきて、岸から上がる白い湯煙を発見したのです。海翁は、村人のために温泉をひらこうとしましたが、



崖の中腹だったので入浴できませんでした。そこでお経を唱えながら小石に経文を書き、それを粘土で固めて岩の割れ目をふさいだところ、次第に今のようなところになりました。湯がわき上がってきたのです。また、湯檢曾温泉は、阿部氏の先祖阿部孫八が発見し、山奥に湯のひそむ「村」という意味から命名されたといわれています。

参考文献：相葉伸編、上州の温泉、みやま文庫、一九六四年、都丸九一、続・地名のはなし、煥平堂、一九八九年、水上町の民俗、群馬県教育委員会、一九七七年。
板橋春夫「いたばしはるお」
一九五四年生まれ。群馬歴史民俗研究会代表。近著「平成くらし歳時記」若田書院、二〇〇四年、「講座日本の民俗学11」共著、雄山閣出版、二〇〇四年がある。